

論文内容の要旨

報告番号		氏名	松岡 龍太
Feasibility of adjunct facial motor evoked potential monitoring to reduce the number of false-positive results during cervical spine surgery (和訳) 頸椎手術術中神経モニタリングにおける偽陽性減少を目的とした顔面運動誘発電位の応用			

論文内容の要旨

【背景】術中経頭蓋運動誘発電位(mMEP)では術操作以外の要因でも振幅が減衰する。偽陽性の原因となるため術操作に影響されない四肢筋と比較(コントロール)して運用するが、上位頸椎手術ではこのコントロールについての報告がない。

【目的】顔面筋運動誘発電位(fMEP)がmMEPのコントロールとして偽陽性減少に寄与するかを検討する。

【方法】頸椎手術を行い、術後神経症状悪化のなかった症例を対象とし、対応するmMEPとfMEPの波形を1セットとした。ベースラインからの振幅変化率を計算し、アラームポイントはそれぞれ、80%、50%低下に設定した。mMEP単独での偽陽性数、fMEP評価を加えたときの偽陽性数をそれぞれ評価した。

【結果】23症例のmMEPとfMEPの79セットが対象となった。mMEP単独では21.5%(n=17)で偽陽性を認めた。fMEPを追加する事で偽陽性は6.3%(n=5)へ有意に減少した(P<0.01)。

【結論】頸椎手術時mMEPにおいてfMEPを併用する事で偽陽性を減少しうる可能性が示された。